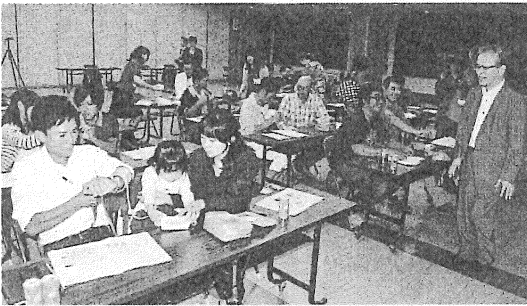


# 農家も「健診意識」を

## つがる弘前農協青年部、弘大と連携

# 短命県 初の健康実践教室 返上へ



中路教授（右端）が見守る中、血圧測定を行うつがる弘前農協の青年部員と家族ら

つがる弘前農協青年部（長内一耕部長）は今年から、弘前大学大学院医学研究科との連携で「健康プロジェクト」の取り組みを始めた。今後5年間をめぐり、継続して部員と家族の健康づくりに取り組んでいく。今月には弘前市城東北の同農協本店で、健康実践教室を初めて開講。同研究科社会医学講座の中路重之教授らが、健康を保ちながら長生きするための要点を説明した。

（渋谷紘一）

農業は体を動かす点、約30人が出席。中路教授は健康的といえるが、授は、事前に部員17人個人事業主である場合から集めた健診の結果が多く、会社員なら事業所単位で受ける健診を必ずしも受けない人が多い。プロジェクトでは、青年部の170人中全員が健診を受診するレベルまで意識が向上するよう意識啓発を続けていく。

初回の教室は14日、開かれ、部員と家族ら約30人が出席。中路教授は、事前に部員17人から集めた健診の結果を参照しながらの助言を必ずしも受けない人が多い。プロジェクトでは、青年部の170人中全員が健診を受診するレベルまで意識が向上するよう意識啓発を続けていく。

初期から健康に気を配る開かれ、部員と家族ら約30人が出席。中路教授は、事前に部員17人から集めた健診の結果を参照しながらの助言を必ずしも受けない人が多い。プロジェクトでは、青年部の170人中全員が健診を受診するレベルまで意識が向上するよう意識啓発を続けていく。

崩し、若くして命を落とした例も耳に聞き及ぼすこと、継続して部員と家族の健康づくりに取り組んでいく。今月には弘前市城東北の同農協本店で、健康実践教室を初めて開講。同研究科社会医学講座の中路重之教授らが、健康を保ちながら長生きするための要点を説明した。

崩し、若くして命を落とした例も耳に聞き及ぼすこと、継続して部員と家族の健康づくりに取り組んでいく。今月には弘前市城東北の同農協本店で、健康実践教室を初めて開講。同研究科社会医学講座の中路重之教授らが、健康を保ちながら長生きするための要点を説明した。